

平成22年度千葉県高等学校総合体育大会

期日 2011/1/16

会場 館山市運動公園体育館

コート AB

Game	性	Team	チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total	Game	性	Team	チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A1	女	A	昭和学院	10	24	25	10		69	B1	女	A	千葉英和	23	19	26	25		93
		B	市立船橋	12	10	8	21		51			B	我孫子	11	10	9	16		46
<p>両チームマンツーマンでスタート。サイズに勝る昭和に対しスピードで対抗する市立船橋。立ち上がり重たいゲームとなり、1Qほぼ互角の展開。2Qよい流れで入ったのは市立船橋だったが、1分経過後、昭和学院の怒涛の攻撃が続き、リードを広げ前半終了。後半に入っても昭和 # 4 余郷の活躍とインサイドを完全に支配した昭和学院が優勢に試合を進める。市立船橋も最後の意地を見せるが、昭和学院がリードを守り決勝進出を決めた。</p>										<p>両チームとも早いバスケットを展開したが、初のベスト4入りを果たした我孫子の疲れは隠せず得点が伸びない。千葉英和は#4、#8が確実に得点を重ね、23 - 11でだい1Q終了。第2Qに入り千葉英和の勢いは止まらない。激しいディフェンスから我孫子のミスを誘い得点を伸ばす。我孫子は最後まで自分たちのスタイルを貫いたが、千葉英和の強さの前に屈した。</p>									
A2	男	A	市立船橋	33	20	16	8		77	B2	男	A	拓大紅陵	19	20	19	20		78
		B	柏日体	16	17	20	19		72			B	幕張総合	20	15	25	23		83
<p>連覇を狙う市立船橋と初のベスト4入りで勢いに乗る柏日体の対決。市船は#4西鶴を中心としたスピードを生かした攻撃と3Pで序盤から効果的に加点。対する柏日体は#10王にボールを集めゴール下で着実に加点を狙うが、思うように伸びず。柏日体はディフェンスをゾーンに変えチャンスをうかがうが、市船は落ち着いて対応し前半を20点差で終了。後半初めは両チームの持ち味を生かした攻防が続くが、柏日体のディフェンスが外のプレッシャーと高さを生かしたディフェンスからの速攻とシュートが決まりだす。市立船橋は#4、#5のファールトラブルが響きリズムが乱れ一気に流れは柏日体に傾く。残り40秒で3点差まで迫ったが、辛くも市立船橋が逃げ切り勝利した。</p>										<p>両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。前半、幕張は#4穴倉の1対1を起点に得点を重ねる。対する拓大は#4平野のハイポストからの1対1等から得点する。4Qまでどちらむ譲らぬ一進一退の攻防が続く。終盤へともつれ込む。拓大は#5渡辺、#8が得点し、残り3分で66-66の同点。しかし、最後ゴール下を支配しディフェンスリバウンドを確実にものにした幕張総合が抜け出し83-78と接戦をものにした。</p>									
女子決勝戦										女子3位決定戦									
A3	女	A	昭和学院	16	7	13	16		52	B3	女	A	市立船橋	21	23	18	24		86
		B	千葉英和	25	19	14	11		69			B	我孫子	12	22	10	14		58
<p>昭和学院は#7を軸に、千葉英和はエース#4を中心にゲームが始まった。千葉英和が昭和学院の#7を抑えに行く3Pで崩しを狙うがなかなか決まらず、逆に千葉英和の#4のスピードのある攻撃を抑えることができずダブルスコアで前半を折り返す。後半、昭和学院もオフェンスのペースをつかみ始める。ディフェンスも相手の攻めに対応し始め互角の展開に持ち込む。4Q、さらに追い上げを図る昭和学院の攻撃に千葉英和は冷静に対応し#4、#6らのガード人がゲームをコントロール。昭和学院の追撃を振り切り優勝を飾った。</p>										<p>両校とも今大会3日間で5試合目。しかし、疲れを感じさせない小気味のよい展開でゲームが始まった。我孫子は#5、#6の3Pシュート、市立船橋は#4、#5、#6を中心に互角のスタート。1Q後半市立船橋は激しいディフェンスで我孫子を5分間無得点に抑え、着実に攻撃につなげる。2Q我孫子も本来のペースを取り戻し#5、#6の得点#12の3Pで追撃を図るが、市立船橋も着実に加点、前半を10点リードで終了。3Q、市立船橋の激しいディフェンスに我孫子のミスが続発。市立船橋はそれを得点につなげ徐々に点差を広げる。4Q何とか追い上げたい安孫子だが連戦の疲れが走るプレーが得点に結びつかない。市立船橋はベンチメンバーを出場させる余裕の展開で大差をつけて勝利した。</p>									
男子決勝戦										男子3位決定戦									
A4	男	A	市立船橋	24	21	21	24		90	B4	男	A	柏日体	18	20	10	19		67
		B	幕張総合	19	30	27	24		100			B	拓大紅陵	8	11	24	12		55
<p>立ち上がりから両者一步も譲らない展開となった。市船は#4西鶴#5石井などの活躍でリードするが、幕総もディフェンスをがんばり速攻、3Pで逆転し幕張の4点リードで前半終了。後半に入ると幕総#4柳本の3P、#5穴倉のリバウンドやゴール下の得点で徐々にリードを広げていく。お互いリバウンドからの速い攻撃で相手を崩し外角シュートを決めるといプレーの応酬でスピーディーな展開が続く。終盤市立船橋はオールコートでプレッシャーをかけ巻き返しを図るが幕総は外角シュートを確実に決め10点差が縮まらない。幕総は落ち着いてリードを保ち市立船橋の追撃を振り切り優勝した。</p>										<p>準決勝でもともに死闘を演じながらも接戦を落としてしまった両チーム。どちらが切り換え、3位をとるか。両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。柏日体は#10王を起点に#8濱田の3Pなどで着実に加点。一方拓大紅陵は柏日体の固いディフェンスに苦しみシュートの精度を欠く。拓大紅陵は動きも重く5分過ぎまで無得点が続いた。ようやく#4平野のドライブで得点を重ねるも1Pは8点にとどまる。さらに柏日体は1年生笠井ががんばりリードを広げる。拓大紅陵も追い上げたいが差を詰めることができない。3Qに入りリードを保ちつつ戦う柏日体に対し徐々にリズムをつかみ始めた拓大紅陵が追撃を開始。#8京が3Qだけで14得点と大活躍を見せ5点差まで詰め寄る。4Q、本来のリズムを取り戻した柏日体が#8濱田、#10王が要所で得点し、リードを保ちながら勝利し初の3位入賞を果たした。</p>									